

◆ 特集 ◆ コロナ禍で考えること ◆

新型コロナウイルスの収束はまだ見えない状況です。
 日本では2月に感染拡大傾向となり、5年生の病院実習が自宅待機となりました。
 3月には卒業式が縮小となり、4月の入学式はなくなり、
 新学期はまず課題による自宅学習が中心となりました。5月になるとオンライン授業が始まり、
 講義をする側も受ける側もほとんどが初めての経験で戸惑いもありましたが、
 いろいろな発見や成果もあったと思います。

web 講義の感想



文字がなかった時代や教わる者が文字を読めなかった時代は、一堂に会して教える者が講義の形で説明していく方法が効率の良い知識伝達法でありました。しかしながら、現代日本においてはほぼ全員が文字を読めますし、教科書があり、ノートはコピーすることができます。集合しての講義は知識の獲得手段として効率や効果の上で最適とはいえなくなりました。近年のITの進歩により、遠隔での学習が促進され、そしてそれはリアルタイムであったり、非リアルタイムでも行うことができます。

医学知識の量が倍になるのに、1950年には50年かかっていたものが、1980年には7年、2010年には3.5年、そして2020年には0.2年(73日)となっています*1。今後の医学教育において、知識の取捨選択と教育の効率化は不可避であります。確かにすべてのICTを利用した教育がベストとは限りませんが、教育の効率化・効果化のためにはICT利用は不可欠です。

このたび、学生の皆さんは意図せずしてオンライン授業を受けることになりましたが、このコロナ禍は教育のICT化を加速したに過ぎず、ICTの教育への導入は既定路線といえるでしょう。ICTに慣れることは今後重要となります。現在、遠隔授業に用いているビデオ会議システムは今後形を変えていくかもしれませんが、社会インフラの一つとなるでしょう。また、インフォーマル学習(正規の課程以外における学び)やリカレント教育(社会人の学びなおし)においても教育へのICT利用は必須となっています。

今回の遠隔授業は、皆さんが生涯にわたって学んでいくための方略を身に着ける良いチャンスだと考えていただけると幸いです。

*1 Densen, P.: CHALLENGES AND OPPORTUNITIES FACING MEDICAL EDUCATION, Trans Am Clin Climatol Assoc, 2011, 122: 48-58.

歯学教育支援センター/附属病院矯正歯科
 准教授
 安藤文人 (84回)



お前たちはコロナ世代と呼ばれるから覚悟しておけ、という鼓舞と共に遠隔講義が開始されてから彼此2か月余りとなる。遠隔講義といってもそれにはいくつか形式がある。例えば録画形式は歴史が案外古く、大学受験予備校において約30年前から実施されていた。

それに対し、わが校の講義は近頃流行りの生放送形式だ。録画形式とは異なり、講師はリアルタイムで各々生徒の反応を確認できる。目が開いているなら問題演習を、閉じているなら口頭試問を課す。また、生徒は対面講義以上に明確な意思表示ができる。声を上げるのが気恥ずかしくともチャットを利用できるし、授業後に疑問点を思いついても開示されたアドレスにメールできる。

もとより講義には受動的側面が強くなる。講師と生徒が隔絶された環境なら尚更だ。だからこそ、生徒にはそれを覆すほどの主体性が求められる。知識を覚えるだけでなく理解をすることこそ、我々が教員の先生方に示せる覚悟の形なのかもしれない。

生命歯学部5年
 三輪 旬





令和2年度の第1～5学年の授業は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、6月2日からWeb授業を行うこととなりました。コンピュータに強くない私は、Web授業がとても不安で、映像や音がきちんと伝わるのか心配でした。いざ始まると、Web授業の間中、授業を行うセミナー室の一室では教務の方々が待機し、映像や音声をチェックして対応して下さるので、安心して授業に集中することができました。最初は、声が聞こえにくいトラブルもあったのですが、その時、学生がチャット機能を使用して伝えてくれました。この、「学生とコミュニケーションを取れること」がとても嬉しく感じました。講義の最後には課題を提示し、学生に送ってもらっていますが、それぞれに工夫してまとめており、質問をメールで送ってきたり、自分で授業内容をまとめたものを送ってくる学生もあり、Web授業という環境の中で、学生一人一人が授業を理解しようと努力しているのを感じました。一番大変なのは、Web授業を受けている学生だと思うので、分かりやすく伝えられるよう努力していきたいと思います。

新潟生命歯学部 歯科補綴学第1講座 准教授
水橋 史 (89回)



新型コロナウイルスの影響で6月からWebでの講義になりました。Web講義では教室で受ける授業と違い、90分の授業をずっと座って受ける必要がありません。通常授業では睡魔に負けてしまうことがありますが、Web授業ではその場で立ち上がったたり、部屋を歩き回ったりすることで気分転換をすることができます。そして、覚えるべき知識を声に出すなどの自分の中で最適な知識の取り入れ方を実践しやすいといういいところがあります。また、毎回の授業で課題が出されるので効率の良い復習ができるという利点もあります。

しかし、教室での授業では曖昧な知識があれば近くの友達に瞬時に確認できましたが、それができなくなったことは窮屈だと思います。他にも、教科ごとで課題の送り方がバラバラなので管理をするのが少し大変です。いつもは紙で勉強しているため通常授業で配られていたはずのレジュメがWeb授業になったことで存在しないのも不便に感じています。

今後、授業形態がどうなるかはわかりませんが、臨機応変に対応して授業での知識を取り込んでいきたいと思っています。

新潟生命歯学部3年 上津菜々子



特集 コロナ禍で考えること・学生短信



当たり前だった日常生活がコロナによってあっという間に変わってしまいました。予定は全て中止となり、残念な気持ちもありますが、何よりこのような事態となってしまったことに驚きと不安が大きいです。

家にいる時間がほとんどとなり、家事や自習、運動、趣味などをして過ごしています。自粛中、体力が落ちてしまうことが心配で、妹達と毎日時間を決めて筋トレをすることにしました。時々早朝にランニングもしています。運動は苦手なので好んでやっているわけではないのですが、毎日同じことを一緒にやっていると感じが繋がっているような気がして、なんだか嬉しくなります。海沿いの道を走りながら他愛のない話をしたり、昇ってきた朝日を見て心が暖まる時間がこんなに良いものなのだとなりがつき、家族と過ごす時間の幸せさを改めて感じました。もちろん、友達とはテレビ電話やSNSでしか交流できないので寂しさもあります。会いたい人達に会えないことはすごく辛いです。

日常生活が変わり、これまでの毎日の中には大変さもありましたが、本当に楽しく有意義であったと強く感じ、当たり前のように過ごしていた毎日が幸せな時間だったと気がつきました。

ある小説によると、私が想像していた以上に現場は追い詰められていて、関係者の方々の体力や精神的なダメージを受けている姿が描かれていました。今現実にも似たような状況が起きているのではないかと思うととても心苦しいです。実際に医療関係者の方々は、沢山の不安やストレスの中で頑張ってくださいているのだと思います。私が今そのような環境に急に行けるか、と言われたら少し怯んでしまうのではないかなと思いました。そのような中、人の健康を守るために頑張ってくださいている先生方に尊敬の気持ちを抱き、自分も将来人のために頑張ることのできる医療人になりたいと強く感じました。

今は少しでも、多くの世界中で苦しんでいる方々が救われることを祈りながら、将来医療に携わる者として、責任を持った行動をとるようにしています。コロナに負けない気持ちでコロナから学んだことを忘れずにこれからの日々を過ごしていきたいです。

生命歯学部4年 久保田こと乃



2月から世界的に感染が広がり始めた新型コロナウイルス。このウイルスの影響により感染者のみならず職場を失う人などたくさんの被害が起り、我々学生もこの被害者になりました。

私はバドミントン部に所属しており現役最後の一年を迎えていました。東京オリンピック開催の影響で毎年夏休みに行われているデンタルは3月に行われることになっていました。学校の定期試験も終わりが部活に打ち込もうと思っていた矢先、新型コロナウイルスによって大会の中止、春の関東大会の中止、部活動の禁止が通達され、現役最後の大会が中止になり部活にかけていた思いが、全て無駄のように感じてしまいました。そして自分が自粛をしようと感染者が増加し続けている状況に対して、非常に虚無感を感じていくようになりました。

そのような状況が続いていく中、アメリカで急激な感染者の増加が起り、医療現場が追いつかないというニュースを見ました。このとき初めて、我々一人一人が行ってきた小さなことが無意味ではなく、人を助けているということに気づきました。そしてこの経験がこれから生きていく上で、一つ一つの些細な行動が人のためになったり、逆に人を傷つけてしまうこともあるということを知る機会にもなりました。またこのような甚大な被害が出ている中、医療従事者や政治家の人たちが毎日仕事をしてくれているおかげで、今自分が何も大きな被害に遭わずにすんでいることを知ることができました。

心の変化は何かの体験によって起こるものだと考えていますが、自分にとって今回の新型コロナウイルスの流行により、今学生のうちにできることは何か、やるべきことは何かを考える機会になり、自分も3年後には医療従事者になる立場として同じような状況になったとき、多くの人を助けられる人になりたいと思う体験となりました。

生命歯学部4年 茂木雄嗣





新型コロナウイルス感染者と同席し、ウイルスに感染するかどうかを試す「コロナパーティー」に参加したある男性は亡くなる直前、後悔の言葉を口にしたそうだ。人間にとって、常に正解となる行動をすることは難しい。しかし、医療に携わる人間は常にそれに近いものを求められていることを、現在も続くコロナ禍で強く感じた。

5年生は本来なら登院服を着ている時期だが、未だ採寸時の1度しか袖を通したことがない異例の事態が続いている。登院が行えないことに不安を感じたことはあるが、Web授業が開始されてからその感情は薄まった。なぜなら、先生方の講義形態が決定してから準備されたとは、信じられないほど質の高い講義を提供してくださっているからである。学生も例年より厳しい環境ではあるが、自分なりに課題を見出すことは重要であると感じている。実際に臨床の場に立たなければ身につかないこともあるはずである。しかし、そのうちの1つである感染対策を意識し、気を配ることはコロナ禍であるからこそ、日常の中で身に付けることができる。

医療に携わる人間として今できる正解となりうる行動を心掛け、後悔のないように登院実習を迎えるまで、より一層準備を進めていきたい。



新潟生命歯学部5年 山川尚起



「卒業生の方々、ご卒業おめでとうございます。」
「新入生の方々、ご入学おめでとうございます。」
これら恒例のお祝いの言葉を直接言えない辛さ、寂しさで今年度はスタートを切ることとなった。毎年行われていた新入生歓迎パーティー、東京校との貴重な学習の場である富士見・浜浦フェスタ、東京校と新潟校の各部活が切磋琢磨する合同合宿、学生主体で地域の方々と触れ合う浜浦祭、そして、夏の大イベントであるデンタルと、本来であれば勉強以外のイベントが多々あり、貴重なキャンパスライフを送るはずであった。

6月初旬、新たな授業形態により、従来のキャンパスライフを送ることができず、学生生活に対して不安を心に抱いていた。将来がどうなっているか考えながら1日1日を過ごしていた中、ある先生より貴重なお言葉をいただいた。「困難を乗り越えようとした『創意工夫の学び』はきっと後に何か新しい『気付き』の端緒となる」という言葉である。この言葉は今の生活の原動力になっている。

COVID-19の感染拡大でできないことが増えたのは否めないが、かわりに他者への思いやり、距離感や日本人の特性、世界の政治経済など多くの感情や知識を学ぶことにつながっている。将来、歯科の領域でそれらを活かせるように日々精進し、この経験を貴重な経験だと自信をもって言えるように、また、歯科医師になるという断固たる決意をもって、この苦難・困難を乗り越えていきたい。



新潟生命歯学部4年 円谷祐太郎

令和元年度 校友会 スポーツ・文化・学術大賞 校友会特別表彰



5月下旬に生命歯学部では、菊池健一郎学生部長と名生幸恵副部長立ち会いのもと、近藤勝洪校友会会長より河上智美バドミントン部顧問へお祝いの金一封が手渡されました。また、新潟生命歯学部には、陸上部へのお祝い金としての金一封を小松崎明学生部長へ渡されました。

学生の皆さんへ



西村正美 (78回、元参議院議員)

本来であれば、前期は新入生を迎え、様々な行事があり心躍る季節でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防拡大のため、毎日自宅でのリモート授業を受け、不自由な生活を余儀なくされていることと思います。

このたび、私はユニクロから段ボール7箱5,000枚のマスクをいただきました。このマスクは校友会を通じて、大学へ寄付いたしました。登校されるようになったときなどにお使いください。

まだまだ先行き不安な生活とは思いますが、校友会は学生の皆さんに、いつでも寄り添っていきますので、何かありましたらいつでも相談ください。



国家試験体験記

NIIGATA

私は第113回歯科医師国家試験を受験し、現在は日本歯科大学新潟病院で臨床研修歯科医師として勤務しています。

国家試験を受験する上で大切なのは、「受験するのは自分自身」だと自覚することだと思います。「この教科は授業が分かりづらいから点数が伸びない」などと言うのはナンセンスです。受験するのは先生や友人でもなく自分自身だと自覚できれば、嫌でも返ってくる結果はすべて自分の責任なのだから、言い訳を考えるよりも自分のためになることを考えようと思えるはずですよ。

そうは言っても何から始めていいかわからないと悩んでいる方も多くかと思えます。ここでは、私が1年間どのように勉強してきたのかをお話させていただきます。これから国家試験を受験される皆様に少しでも参考になれば幸いです。

れば幸いです。

勉強の基本は授業でした。本当にこれにつきます。分からないことは授業後に質問をして、とにかくそのままにしないようにしました。単に覚えようとするに限界があるので、授業中にいかにメモをして印象付けておくのが大切です。

放課後はその日の授業の復習をします。試験直前も授業プリントを見直し、演習問題を解き直すようにしていたので、覚えるというよりは考え方や流れが自然と定着するという感じです。ノート作りは大切ですが、わたしは苦手なところや忘れたくないところだけを必要最小限にまとめました。ただこれが成立するのは授業プリントを何度も復習してそれがノート代わりになっていたからだと思います。参考書を使う教科も2科目ありました。調べるために使うというよりは、苦手な科目であったからこそ

ほとんど毎日見ていました。1～10章までであるとする試験直前は、1日目：1～3章、2日目：2～4章、3日目：3～5章というようにローリング形式でやっていました。この方法は大変ですが、すごくおすすめです。

模試に関しては、必須のもの以外は受けませんでした。模試は2日間にわたりますが、1日目が終わったあとすぐに帰らず友人と残って答え合わせをしていました。自分の考え方の間違いを修正するのに、友人の意見はとても参考になりますし、印象に残るので忘れません。

6年生は大変な1年になると思いますが、自分を信じて最後までやり切ってください！皆さんの国家試験合格を祈り、心から応援しています。



新潟病院
臨床研修歯科医
田代夏乃
(109回卒)

TOKYO

私は第113回歯科医師国家試験に合格し、日本歯科大学附属病院で臨床研修医として働きはじめました。今回は国家試験に向けての私の勉強法についてお話をさせていただきます。今後国家試験を受験される皆様に少しでも参考になれば幸いです。

平日は夕飯まではその日やった授業の復習をしていました。夕飯後と休日は「アウトプット学習」を重視していました。「アウトプット学習」とは①科目と範囲を決める。②範囲に該当するここ10年分の国家試験を解く(アウトプット)。③範囲に該当する箇所を教科書等を用い知識の確認(インプット)。というものです。私がこの学習を採用した理由はアウトプットを先にすることで、自分の知識

の曖昧なところが明確になり、その後のインプット時に知識がより定着するからです。

またグループ学習も行っていました。グループ学習のメリットは①疑問に思った箇所をすぐに聞ける。②逆に相手がわかっていないところを説明することにより自身の知識の定着度の確認ができる。③勉強に気分が乗らない時も仲間がいることで乗り越えられる。といった点があげられると思います。

また毎回試験10日前からは試験に出そうなところをまとめていました。試験直前になると何をやればいかわからなくなる時があります。そういう時に自分オリジナルのまとめを何回も見直していました。自分が出ると予想した問題が試験に実際に出ると試験中不安

な気持ちが前向きな気持ちに切り替わります。

最後に皆さんはこれから国家試験合格を目指す旅に出ます。その旅の途中、前進することもあれば後退することもあります。後退はマイナスのイメージが強いですが、実は後退することによって次はこのように取り組もうといった今まで見えなかった景色が見えてきます。後退もまた目的地に辿り着くために必要です。今年度は新型コロナの影響で今までにない環境下で勉強をする機会が多いと思います。ただ優秀な人は環境に不満を言いません。環境に負けることなく一年間頑張ってください。



附属病院
臨床研修歯科医
林田尚斗
(109回卒)

東京

走査電子顕微鏡で旅する口腔のミクロな世界
著者：神山卓久

出版社：医歯薬出版 出版年：2020/4
請求記号：D.11 / Ka39 登録番号：100037533

口腔内の各組織や細菌などを走査電子顕微鏡で撮影した歯科界初の画像集。

普段目に見ている口腔内も高倍率で見ると、自然の造形物のような美しさを愉しむことができます。

肉眼では見ることでできない微細な世界を観察することができるので、口腔内の病変過程への理解も深まるでしょう。

●図書館開館情報

開館情報はQRコードから閲覧ください。



新潟

アラジンと魔法のホシャットラスナン：CD付き楽譜集
著者：井上公秀

出版社：アイヴィデンタルオフィス 出版年：2020
請求記号：D8-1 登録番号：000139140

虫歯予防を呼びかける子供向けの歌のCDと楽譜です。「ホシャットラスナン」とはアラビア語で歯ブラシを意味しています。1曲は歯磨き1回の理想的な時間である約10分。本学の卒業生である著者が「家族で聴きながら楽しんで歯磨きしてほしい」という思いで作成、寄贈していただいた一冊ですので、ぜひご利用ください。

●図書館開館情報

平日 9:00～17:00 土曜日 終日閉館
貸出・返却のみの利用になり、閲覧・学習は禁止です。
利用は6年生、7年生のみとなります。

図書館からの
推薦図書

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

